

音楽科学習指導案

日時 平成29年6月1日(木) 公開授業Ⅱ

学級 岩手大学教育学部附属中学校

1年B組40名

会場 音楽室

授業者 柿崎倫史

1 題材名：歌曲を聴き、声の表現の深さを味わおう

学習材名：①歌曲「魔王」(F.シューベルト作曲 ※イアン・ボストリッジによる歌唱)

②歌曲「雪女」(團伊玖磨作曲 ※米良美一による歌唱)

③落語「死神」(古典落語 ※柳家喬太郎の独演)

2 題材について

(1) 生徒観

生徒はこれまでに小学校での学習を基に「春」を鑑賞し、音楽が音色や強弱、旋律の変化によって雰囲気が変わり、言葉(ソネット)と有機的に関わっていくことを学習した。また、直前の題材では「浜辺の歌」の歌唱を通して、「歌曲」が言葉(歌詞)の世界を表現する大切さにも触れた。言葉と音楽によって紡がれる「歌曲」のよさに十分に浸ったこの機会を捉え、歌曲の鑑賞を通して、音楽と歌詞の世界が有機的に関わる効果に触れさせたい。

(2) 学習材観

a 題材と学習指導要領とのかかわり

本題材は、学習指導要領に示された指導事項のうち、主に以下の内容についての指導を行うものである。

[第1学年] 2 内容

B 鑑賞

- (1) ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
- イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。

[共通事項]

- (1) ア 音楽を形づくっている要素のうち「強弱」「音色」「旋律」や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。

b 題材にかかわる楽曲の教材性

本題材は、一つの作品（歌曲「魔王」）を取り上げじっくりと聴くことを基本とするが、探求心を持って楽曲の聴取に取り組むため、「怪談」をキーワードに、スタイルの違う複数の作品を取り上げ、比較聴取する活動を通して、「言葉と音楽の関係性」を自分なりに捉えるのではないかと考えた。以下、楽曲毎にそのねらい達成にどう資するのかを記す。なお、本題材では学習材は全て音声のみで、映像は用いない。

①歌曲「魔王」（F.シューベルト作曲 ※イアン・ボストリッジによる演奏）

ゲーテの物語的な詩の世界を、イアン・ボストリッジが多彩な音色の変化や発音・強弱変化の巧みさによって登場人物の個性やその場の感情を歌い分けている。また、シューベルトの歌曲全般に通して見受けられるような言葉と伴奏の関連性も高い。落語と対比させた際に、この声色や強弱だけでなく、作曲者の視点から旋律の音高の変化や、伴奏が醸し出す雰囲気は自然と気付かせるように指導していきたい。

②歌曲『雪女』（團伊玖磨作曲 ※米良美一による演奏）

團の『6つの子供の歌』という連作に収められた小品の一つである。「浜辺の歌」で学習した「言葉と音楽の関連性」を他の日本歌曲においても音色や強弱、旋律の変化で物語が描き出されることや、ドイツ歌曲と比べて母国語の歌曲であると、より一層身近に世界観を捉えることができる、という2つの気づきを与える教材として用いる。

③落語「死神」（古典落語 柳家喬太郎の独演による）

落語「死神」と歌曲「魔王」を比較させることで、「一人〇役を主に音色の変化で園児分けている」という共通点を聴き取らせ、次いで相違点を問うことで逆説的に歌曲「魔王」の音楽の内容に目を向けさせたいと考えた。主人公は「死にたい」という願望を持っていながら、死神と出会い、その後死神からの助言をもとに詐欺まがいの医者をやりに大成する。しかし、途中で死神との約束を破り、本当の寿命を迎えている患者の命を欲に目がくらみ、助けてしまうことで寿命を縮められてしまう。オチは複数のパターンがある。今回はマクラ部分を「魔王」の「語り手」部分に相当すると捉え、「マクラ」～「主人公と死神の対話」までを聴かせる。噺家が声色で役柄を演じ分けるのが分かりやすい部分である。

（3）学びの本質に迫る指導について

我々が音楽を聴くとき、鳴っている音響全体を聴きながらも、作曲者や作詞者、演奏者が意図した音韻情報を紐解こうと考えながら聴いているといえる。例えば、「この『空は美しい』と語っている旋律、歌の表現が素晴らしい。良い声だ。」などと感じ取っ（あるいは、考え）て聴いている（無意識であっても）。それは、聴衆の体験やその時の感情、授業であれば、生徒が聴取前の教師の発問などにより、大きく聴き取る内容が変わってくることを意味している。

さて、音楽を取り巻く状況が加速度的に変化していく現代社会において、音楽聴取が自己中心的になり、聴き方が個人の好みの一辺倒になりがちである。誰もが簡単に演奏者・作曲家・聴衆となり得る時代において、自分なりの価値を伴った聴き方で「音楽の捉え方がこんなに変わるのか」という新鮮な驚き・発見が、今後の音楽との関わり方にこだわりを持ち、豊かにしていく素地を作るものと考え、今回の題材構成に至った。比較聴取の活動を主とし、「感情（今回は恐怖心）」をより鮮明に伝えるには、「表現者がどうあれば良いのか」という視点と「音響をデザインする者（作曲家・作詞者）としてどう考えれば良いのか」という視点に加え、聴衆として音響デザイン（≒作曲）としっかり向き合い、その意図を汲み取ろうとする態度を養いたい。

3 題材の指導目標及び評価規準

(1) 指導目標

・歌曲を聴く活動や、他の学習材と比較聴取する活動を通して、テキストと音楽の有機的なつながりを探求し、作者の意図を探ろうとする態度を育てる。

・「魔王」や「雪女」の旋律や声色、伴奏の変化を感じ取って聴き、その特徴を言葉で説明したり、テキストと関連付けたりしながら、歌曲のよさを味わう。

(2) 評価規準

観 点	音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
評価規準	「魔王」や「雪女」を聴き、音楽的な特徴を言葉で説明したり、テキストと関連付けたりしながら、歌曲のよさを味わう活動に意欲的に取り組んでいる。	歌曲「魔王」や歌曲「雪女」の旋律や声色、伴奏の変化、落語「死神」の間を感じ取り、その特徴を言葉で説明したり、学習材のテキストと関連付けたりしながら、歌曲のよさを味わって聴いている。

4 題材の指導計画及び評価計画（全3時間）

(1) 歌曲「雪女」の聴取、歌曲「魔王」の聴取、知覚・感受をノートに記述

(評価：鑑賞の能力)

(2) 歌曲「魔王」と落語「死神」の比較聴取、ノートに共通点と相違点を記述

歌曲のもつよさ（ピアノ伴奏、旋律の様子）をまとめる

(評価：音楽への関心・意欲・態度、鑑賞の能力)

(3) 改めて歌曲「魔王」の聴取、音楽的な特徴のまとめ、鑑賞文の作成

(評価：音楽への関心・意欲・態度、鑑賞の能力)

5 本時について

(1) 主題

「魔王」の歌曲ならではのよさを考える

(2) 指導目標

比較聴取の活動に探求心をもって取り組ませ、歌曲「魔王」の音楽的特徴に気付かせる

(3) 評価規準

・音楽への関心・意欲・態度（観察法・ノート記述）

歌曲「魔王」と落語「死神」を聴き比べ、その違いを理解する活動に意欲的に取り組んでいる。

・鑑賞の能力（ノート記述）

歌曲「魔王」と落語「死神」を聴き比べ、共通点として音色の変化、相違点として旋律の音高、伴奏の有無をノートに書き込みながら言葉でまとめ、歌曲「魔王」の特徴を理解している。

(4) 指導の構想

前時までは歌曲「雪女」・「魔王」を聴き、言葉と音楽の有機的な関わりを学んでいる。「こわい」という感情を切り口に、「より鮮烈に臨場感をもって伝えられる」ことが音楽の力であるということに気付かせたい。

授業者として今回大切にしたいのは、作曲者の視点をもって、構造的聴取をし、鑑賞を深めることである。「表現と鑑賞を一体に捉える」には、逆説的だが「表現領域でつける力」と「鑑賞領域でつける力」をはっきり分けて捉えることが最初のステップだと考えた。鑑賞領域では、楽曲そのものの音楽的な特徴の知覚・感受と、その楽曲の背景等のメタファーの理解によって、前述の「鑑賞でつけることができる能力」をより確かなものにできるのではないだろうか。

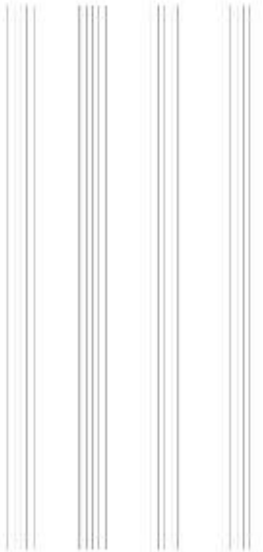
さて、本時ではドイツ歌曲である「魔王」と日本の古典芸能である落語「死神」を聴き比べる。落語は語りの芸であり、我が国の伝統音楽として捉えた時には、「魔王」と「音色の変化で一人何役もこなす」という共通の特徴がある。この「一人何役も…」は、演者の名人芸的な部分が多く（音楽を形づくっている要素でいうと音色の工夫に相当する。この工夫は作曲者ではなく、表現者の工夫である。）、作曲者の視点で音楽を構造的に聴取することには、妨げになる可能性もあると考えた。つまり、『魔王』は音色を変えて一人で何役も歌う楽曲だと生徒が理解してしまえば、作曲者がテキストに合わせて旋律の音高を変えていたり、ピアノ伴奏で描写的に音楽の雰囲気を作っていたりする特徴は副次的なものとして捉えられかねない。

本時は「魔王」と「落語」の聴き比べにより、「音楽にしかできないこと」を浮き彫りにし、その価値について考えさせたい。表現者と、作曲者の視点をメタ認知しながら持てるかどうかを形成的に評価しながら、「(卒業後も)音楽を愛好していく心情を育てる」という音楽科の目標達成に資するよう授業を構想した。

(5) 本時の展開

段階	学習活動	学習内容	時間 (分)	■学びの本質に迫る指導と評価に関わる留意点
導入	①前時の復習 ②課題の把握	・「魔王」のストーリーの確認と聴取 ・落語「死神」の紹介	10	・前時と同じ内容となるので、時間をかけない ・「一人何役」の表現で学習材をつなぐ
落語と聴き比べて、「魔王」の歌曲ならではのよさとは何かを考えよう				
展開	③課題の追求 I ④学習材の聴取 ⑤課題の追求 II ⑥まとめの記入	・共通点は「一人二役以上やっていること」で、音色（声色）の変化により、役柄が変わっていることを <u>全員が</u> 確認する ・落語「死神」と歌曲「魔王」を比較聴取する ・気付いた事をノートにまとめ、発言で共有する ・「魔王」のよさについてノートにまとめる	35	・聴く視点（歌曲ならではの）を確認・共有する ■表現者の <u>音色（声色）</u> によって、登場人物の境目が分かるように発言をコーディネートする ・「死神」（抜粋）→「魔王」の順で聴かせる ■「魔王」の伴奏や旋律の変化に着目させる ・机間巡視して、指名する生徒を決めておく
終結	課題に対するまとめ（評価） （記述例：「魔王」と「死神」は声色を変えて「一人何役もやること」は同じだが、「魔王」は旋律の高さやピアノ伴奏などが加わってよりドラマティックに怖さが伝わる）			
	⑦まとめの共有をする	・ノートの「まとめ」を発表し合い、共有する	5	■仲間の発言で気付いたことや、納得したことは朱書きさせる。

(6) 板書計画

<p>落語と聴き比べ、「魔王」のよさとは何か探ろう</p> <p>歌曲「魔王」 <small>歌曲ならではの</small> 落語「死神」</p> <ul style="list-style-type: none">・一人四役→どうやって?・落語にあって歌曲にないこと (予想)<ul style="list-style-type: none">・旋律について・ピアノ伴奏について	
<p>比べて気付いたこと</p> <ul style="list-style-type: none">・ピアノ伴奏に関すること・旋律に関すること・間や速度、リズムに関すること・強弱に関すること	<p>歌曲ならではのよさとは</p> <p>例：「魔王」と「死神」は声色を変えて「一人何役もやること」は同じだが、「魔王」は旋律の高さやピアノ伴奏などが加わってよりドラマティックに怖さが伝わる</p>